

新座市指定管理者制度導入施設管理状況評価シート（令和7年度分）

【施設の概要】（所管部記入）

施設名	新座市福祉の里図書館及び新座市立中央図書館分館		
所在地	埼玉県新座市新塚1丁目4-5 福祉の里4階ほか	所管部署	新座市立中央図書館
制度導入年度	令和元年度		選定方法 ☐ 公募 / ☒ 指名
指定管理者	名称	株式会社図書館流通センター	所在地 東京都文京区大塚3-1-1
	指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日（5年間）	

【事業概要】（指定管理者記入）

事業概要	新座市の図書館設置目的と弊社の図書館運営理念とを融合させた図書館運営をめざします。図書館運営を行うにあたっては、関係法令および諸規定を順守し、個人情報保護や危機管理対策、著作権法等、図書館運営においての重要課題となる事柄を全スタッフが学び、実践いたします。また、スタッフの技術および知識の向上を図り、適切な管理運営とサービス提供を行います。さらに地域との連携を図りながら、図書館活動を展開させてまいります。
特筆事項	※ 運営において創意工夫した点や指定管理者の提案による新たな取組等を記載 福祉の里図書館は、乳幼児から高齢者まで、市民の福祉やコミュニティ活動の中心となる福祉と教育の総合施設である福祉の里の中に設置されており、児童並びに高齢者を中心に、すべての世代に向けたサービスに努めてきました。これを実現するにあたり、利用者サービスの充実を目標に掲げ、日々改善・改革を実行し魅力ある図書館運営に向けスタッフ一丸となって事業を遂行してまいりました。 自主事業においては、一般向けとして「文学講座・邪馬台国の謎」を実施、受付開始後早々に定員に達するなどご興味を持っていただけた講座となりました。「読み聞かせ講座」は一昨年から実施しており、昨年度の中級編に続き今年度は実践編を行いました。 初めてのご参加で、初級編からの再開催を希望される方もいらっしゃいました。7月にはアンケートでもご要望の多かった「おとなの工場見学 図書館の本ができるまで」を実施しました。弊社の物流工場新座ブックナリーにて、本が図書館資料用に装備されていく工程や、新座市から全国の図書館や学校へ送られていく流通についてのレクチャーもあり、満足いただける事業となりました。また分館スタッフによるおはなし会は今年度より西堀・新堀コミュニティセンター図書室と中央公民館図書室でも開始いたしました。これにより、更に多くの子どもたちと本とをつなぐ機会を増やすことができました。地域連携では埼玉県立新座総合技術高校との企画「あなたの知らないボードゲームの世界」を開催しゲームの説明を生徒が積極的に行いスムーズに進行するなど、連携事業としてより一層生徒との団結力が深まったと感じています。児童向けの事業では、11月に新座団地図書室前の屋外にてあおぞらおはなし会を実施しました。読み聞かせや手遊びのほか、打楽器の演奏なども取り入れ、立ち止まって聞いてくれる方もいました。当日は気温が低く、図書室のヒーターを使用するなどの対応をしましたが今後は時期なども検討してまいります。初の事業として実施の図書館内で謎を解くクイズラリー「謎解きイベント《おおかみをつかまえろ》」では、近隣の小中学校・高校にもポスター・チラシの掲示・設置を依頼するなど参加促進に努め、親子から中高生まで多くの方ににご参加いただきました。またYA世代の図書館利用促進の一環として、夏の長期休暇及び冬の試験期間を中心に集会室を自習室として開放しました。YA向け資料を開放中の集会室に展示したところ、勉強の合間に手に取っていただくこともできました。

【総合評価】

指定管理者の自己評価

総合評価	S	☐	優良	項目別評価総括が全てA以上であり、Sが二つ以上である。
	A	☒	適正	項目別評価総括が全てA以上である（上記以外）。
	B	☐	課題あり	項目別評価総括にBが含まれている。
評価内容	令和7年度事業は、ぬいぐるみおとまり会やこども人形劇などの人気事業の継続、埼玉県立新座総合技術高等学校との地域連携・出張おはなし会など近隣施設とのつながりを深め、参加者の満足度を高めることを目標に実施してまいりました。 地域学校との連携としては小学校で6校の社会科見学の受入れ、中学校1校の職場体験学習の受入れを行いました。 また3ヶ所の分館ではそれぞれのおはなし会も実施し、図書館の利用促進、地域に根付いた図書館運営を目指しました。また民間事業者としてのノウハウを活かすため、情報や技術リテラシーを高めるなどの継続的なスキル向上にも努め、全国の指定管理館が実施している事業やサービスに関する情報収集を行い、本社および他館のリソースを活用した事業を企画・実施し、利用者ファーストの図書館運営を推進しました。			
改善策	※ 評価Bの場合のみ記入			

市の評価

総合評価	S	☐	優良	項目別評価総括が全てA以上であり、Sが二つ以上である。
	A	☒	適正	項目別評価総括が全てA以上である（上記以外）。
	B	☐	課題あり	項目別評価総括にBが含まれている。
評価内容	協定等の水準を満たす管理運営が行われた。 令和7年度についても、概ね当初事業計画及び収支予算のとおり実施、運営された。 福祉の里図書館の事業については、事業費の抑制を図りつつも、多様な図書館事業を実施しており、創意工夫がみられる。 地域連携としては、例年と同様、近隣の高等学校や福祉の里児童センターとの共催事業を開催し、若年層の利用促進を図った。 分館事業については、新座団地図書室で初めて屋外おはなし会を実施した。今後も魅力ある分館事業の実施を望む。 年度末に行われたアンケートでは、福祉の里図書館・分館すべてにおいて特にスタッフの対応に対する利用者の満足度が高く、日頃から丁寧な対応に努めている結果と評価する。 一方で令和7年度の利用者数及び貸出冊数ともに昨年度実績を下回った。 本館・分館利用者からは高い評価を得ている現状を活かし、今後は未利用層の利用促進に向けた取り組みをさらに強化することを期待する。			

【市の評価を受けた今後の取組や改善策等】（指定管理者記入）

昨年度に続き、令和7年度の利用者数及び貸出冊数が福祉の里図書館、分館ともに前年度を下回る結果となりました。魅力ある書架づくり、安全に気持ちよく本をお読みいただくための空間づくり、必要な情報を迅速にご提供するためのレファレンスサービスの強化、来館ごとに楽しんでいただける企画展示など、様々な角度からの図書館づくりを目指し、利用増加に努めてまいります。

また、定員数が少なく、小規模な事業の実施が多いとのこと指摘もありました。今後は時期をずらして同事業の2回開催や、気軽にご参加いただける予約不要事業、地域施設との連携などより多くの地域の方々にご興味を持っていただける事業を計画してまいります。また年に1度行っている利用者アンケートと自主事業終了後にご記入いただくアンケートの結果を踏まえ、利用者さまのお声を反映した事業を行ってまいります。事業開催にあたっては効果的な広報活動を行い、より多くの方に楽しんでいただけるよう努めてまいります。

【過年度の評価結果まとめ】（所管部記入）

評価区分	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (5年目)
指定管理者の自己評価	A	A	A	A	
市の評価	A	A	A	A	